

日 時 : 2006年 2月 5日 主日3部説教

題 目 : 人生は苦難のために生まれた

説 教 : チョーヨンギ 牧師

御言葉 : ヨブ記 5章 7節

" 人が産まれて悩みを受けるのは、火の子が上に飛ぶにひとしい "

[序論]

今日、私は皆さんと共に " 人生は苦難のために生まれたと言う題名で恵みを交わしてみます。ある王が歴史学者を呼び集めて " 世界史を一冊の本にまとめよ " と指示しました。そして、学者達は指示通りに一冊の本に世界の歴史をまとめましたが、王様は満足せず首を横に振りしました。 " これは、あまりにも厚すぎて読めない。だから、半分にしなさい。 " そして、この半分にするという命令の繰り返しでした。そのうち、本自体が、紙切れ一枚になってしまいました。その紙には、こう書いてました。 " 人類の歴史は苦難の歴史であった " これが、学者達の終局的に王様に報告した歴史の記録でした。そうなのです、人類の歴史は苦難自体でした。人生が受ける苦難の差はありますが避けられないのです。生まれてから老人になるまで生きるために競争の中で数多い心身の苦しみを受けるのです。経済的、社会的、人間関係、病、そして最後の苦難である死亡を受けるのです。苦難を楽しむ人はいません。苦難を受けるとき喜び歓迎する人などいません。

でも苦難を受けずに生きられないとは皆知っています。それでは、苦難の意味を理解し私達の生の意味になるようしなければなりません。苦難が私達を盗み、殺し、滅亡させる使者にならせてはなりません。どうすれば苦難を私達に有益にできるでしょうか？

それは、苦難に対する正当な認識を持ち、よく理解して受け止め消化させれば苦難は私達に祝福と変わるのです。

[本論]

1. 苦難は自分を省察し人格的に成熟させる。

最初に何故、苦難が祝福になるのかと言うと自分自身の省察の機会になり成熟をもたらすのです。何故なら苦難を受けてから人は悔い改めをするのです。全てが平坦で良いことばかりですと悔い改めの必要性を感じないのです。自分自身の過ちは見えないからです。ところが、行く道が険しく苦しみが訪れると何かが間違った、過ちを犯したと考え悔い改めをするのです。子供を育ててみると分かります。例えば子供が病にかかると親は、自分が何か間違いをおかしたのかを考えるのです。

詩編 119 篇 67 節で " わたしは苦しめない前には迷いました。しかし今は御言葉を守ります "

自分勝手に生きてた人も鞭に叩かれ苦難を受けると神様の法の下に帰ってくるのです。羊を飼う牧頭も羊が列を離れると棒で叩くのです。叩かれた羊はまた列に戻ります。そのまま放っておけば猛獣の餌となってしまうのです。

詩編 34 篇 18 節で " 主は心の砕けた者に近く、たましいの悔いなくおれた者を救われる "

心が乱れますか？ 苦難を受けてますか？ 心が乱れると悔い改めするようになるのです。だからこそ苦難は私達の心を悔い改めする結果をもたらすのです。私は、46年間牧師をしながら平坦な生活の中で悔い改めする人を一人も見ませんでした。平安で快いのに悔い改めなど考えません。でも苦難を受けると悔い改めをし神様を懇切に呼ぶのです。苦難は自己省察となり人格的に成熟するようになります。我が民族が相当な苦難を受けてるでしょう？ 政治的に混乱で経済的な苦しく、どこへ向かってるのか目標が明らかではなく夢がありません。何故かという、苦難を通じて我が民族全体に対して悔い改めろという事なのです。

その間、神様の恵みを受けながらも神様を忘れて人本主義となり世間に流れるまま生きてきた罪を悔い改め、この苦難を通じて神様に戻る神様の信号と私達は考えなければなりません。私達の心が乱れます。だから民族的な悔い改めをし神様が私達を成熟させてくれるのです。驕慢で自慢に溢れ軽舉妄動する生を生きる人も苦難を受け崩れて謙遜になり自重するようになります。良いことがおきるとこの世全てが自分の物のように思われます。でも事業が傾くとか失業すると崩れてしまうのです。

詩編119篇71節で"苦しみにあったことは、わたしに良いことです。これによってわたしはあなたのおきてを学ぶことができました。"

以前は神様の御言葉など聞かなかつたし教会にも来ないし説教にも耳を傾けなかつた人が苦難を受けて神様の御言葉に耳を傾けるのです。神様は、驕慢な人には絶対に恵みを与えません。謙遜な人に恵みを授けるのです。恵みは高いところから低い所へとながれるのです。ですから私達が低くなると神様の恵みが溢れるのです。

驕慢で自分で高くなったと思うところには神様の恵みが与えられないのです。彫刻家を見てみましょう。大きな岩の中に自分が思う物を想像します。他の人の目から見ると一つの自然的な岩ですがその人の目には自分が思う美しい姿が見えて作り上げていくのです。

削りを繰り返すなかでどんどん美しい彫刻品が生まれていくのです。私達の神様は皆さん一人一人を見つめ作品を作り上げようとなされるのです。アダムとイブの墮落以後、自然の盤石のような我々を選びキリストのような作品に作り上げようとするのですが、放っておいて作品になれますか？

神様が我々を削っていくのです。痛いでしょう？ 私達の一部分が削り落ちていくのは痛みそのものです。でもこれを通じて私達は成熟なクリスチャンになりキリストの形相に似た美しい神様の芸術作品となるのです。だから苦難は悔い改めさせ私達を成熟させてくれる大きな要素となるのです。それを理解し私達が受け止め肯定的な態度をとれば私達に良い有益となるのです。

2. 苦難は自我を崩す

二番目に苦難は完悪な私達を崩すのです。

私達が自ら崩れるのであれば良いのですが、そして主なるイエス様に順服すればよいのですが、現実には自分の心も自分もわからないのです。思うようにできないのが人間なのです。いくら自分で自分を崩そうと思ってもできないのです。その方法としては、私達の手ではなく苦難の手を借りれば可能なのです。苦難があれば自我も崩れ隣人を大切に思います。苦難が来ないときには自分も隣人も大切に思いません。崩れない夫にいくら家内がアドバイスしても聞きません。聖書には、家内は夫のアドバイザーと書かれています。神様がアドバイザーとしてこの世

に送ってくれた妻の話を謙遜に聞けば良いものを驕慢なときには聞かないのです。" やかましい、静かにしろ " と言うのです。そうでしょう？

他人の忠告を聞かないと危険に落ちてしまうのです。自分が最高だ、何でもできると思い、他人の忠告と指摘を無視するときから既に狼狽と失敗に落ち込んでるのです。隣人のアドバイスをいやがる時既に奈落に落ちていく最中なのです。ヨブが試練を受けるときヨブ記 4 章 6 節で " それでわたしはみずから恨み、ちり灰の中で悔います "

ピリピ人への手紙 2 章 3 節で " 何事も党派心や虚栄からするのではなく、へりくだった心をもって互いに人を自分よりすぐれた者としなさい。 "

自分が崩れてこそ他人を治せるのです。隣人のアドバイスに耳を傾け常に自分のせいだと自省をして誰にでも耳を傾けると祝福が授けられるのです。皆さん、子供たちを育てるときもそうなのです。自分が良い時は、" 自分の実力 " 反対に悪いときは、祖先のせいにしてしまいます。運悪く良い両親に出会えなかったとか、祖先が悪かったとか。子供を育ててみると良く分かることです。子供たちは、良いときには親のお陰とはおもいません。ただし、悪いときは、親が手助けしてくれないとか良い教育をしてくれなかったとか言い始めるのです。人が崩れて謙遜になり姿勢が低くなると自分のせいだと思います。

自分の家内にも " 悪い、申し訳ない "、反対に妻が夫に向かって " あなた、ごめんなさい "

そして隣人にも " すみません " と言えば希望がわき始めるのです。でも現実はそのではありません。そうすれば希望は消えていくのです。親子でも子供に向かって怒ると子供は、ご免なさいと謝り悔い改めます。そうすれば良いのですが、" おかあさんが言いつけたでしょう？ " と言い反省がなくなります。自分の過ちに対する反省はなく誰かが言いつけた事に対し恨むだけです。これでは、希望はありません。道端で接触事故を起こして争ってるドライバーたちを時々みます。声の大きい人が勝つのでお互いに大声で怒鳴ります。お互いに相手の過ちを大声で指摘するので道端は大声一杯です。自分のせいだと言う人は誰一人いません。

でも苦難を通じて崩れると謙遜になり自分が低くなり自分を振りかえるようになるのです。自分を合理化せず悔い改め告白する人は救いを授けてもらえるけれども、その反対になるとルカによる福音書 6 章 4 節で " 自分の目にある梁は見ないでいて、どうして兄弟に向かって兄弟よ、あなたの目にあるちりを取らせてください、と言えようか。偽善者よまず自分の目から梁を取りのけるが良い、そうすればはっきり見えるようになって、兄弟の目にあるちりを取りのけることげできるだろう "

偽善者、驕慢者は、他人の短所だけを探ります。これもあれも全部、あなたのせいだというのです。これが、偽善者、驕慢者なのです。ですから、崩れて謙遜になった人は自分の短所を見つけ悔い改め反省をします。堅い穀物を崩し粉にしてようやくパンになれるでしょう。メリケン粉、麦粉はどうやってできあがるのでしょうか？ブドウ酒を造るときもブドウを踏んで蹴るのです。そうしないとブドウ汁がでないのです。オリーブ油もオリーブを砕いてでるのです。でないといけません。我々の食べ物もそうです。歯で噛んで胃で消化させるのです。最近の長生きの秘訣としては、歯が丈夫でないといけません。五つの福の内一つです。歯がなければ入れ歯でもして歯の代わりとしています。でも昔は、歯が抜けた老人は噛めずに食べ物を食べる時非常に不便だったのです。栄養失調になり体の抵抗力が下がり病に冒されるのです。だから最近の長生きの秘訣は歯なのです。

自分の歯がなければ入れ歯でもしなければなりません。そして、ゆっくり食べながら砕かなくてはいけません。急に食べるとあたります。ゆっくり長く噛まなければなりません。口の中に

いれて飲み込むのではなくゆっくりと嚙んでいきながら細かくしていくのです。これが消化をよくする秘訣です。

私達の人生も似たようなものです。崩れた様子によって成熟度が違ってきます。細かく崩れれば崩れるほど成熟したクリスチャンになれるのです。

" 何故、わたしにこんな苦勞がくるの？ "

" そうでないと、あなたを救えません "

苦難は、間違った生を捨てて自分を振り替える大きな要素になるのです。家出をしてさんざん苦勞して親の下に帰ってきた子供の話が聖書でイエス様がしておられます。

ルカによる福音書 15 章 18 節から 20 節まで " 立って、父のところへ帰って、こう言おう、父よ私は天に対しても、あなたにむかっても、罪を犯しました。もう、あなたの息子と呼ばれる資格はありません。どうぞ、雇い人のひとり同様にしてください。そこで立って父のところへ出かけた。まだ遠く離れていたのに、父は彼をみとめ、哀れに思って走りより、その首をだいて接吻した。 "

砕かれてからこそ戻れるのです。そうでなければできないのです。ムーデイ牧師と共にアメリカや世界を復興させたトリー博士は、" 幼いころ、母の口癖で、朝早く起きなさい、聖書を読みなさい、祈りなさい、日曜日には教会に行きなさい、神様中心に生きなさいというので家出をする事にしました。

" お母さん、さようなら。 "

" あなたの人生の中で苦難が訪れるとき、我慢できない事があったときあなたの母があなたのために祈ってるという事を忘れないで " という母の言葉を聞きながら家出をしました。そして、彼は世の中であらゆる罪を犯したのです。淫亂、放蕩、酔っぱらい等、世の中に酔って醜い人間となり体は病に冒され生活も貧しくなりある日、三流旅館に泊まって自殺をしようと思いました。鏡を見つめるととき自分の姿を見て驚きました。あまりにも悲惨で人間とは思えないぐらいでした。

" これなら死んだほうがマシだ。 " この時、母の言葉がうかびました。

" あなたの人生の中で苦難が訪れるとき、我慢できない事があったときあなたの母があなたのために祈ってるという事を忘れないで " という言葉が思い浮かび涙が出てきて聖書を読み始めました。そして、感動を受け家に戻ったのです。そして、母と仲直りし神学校に入学し牧師となりムーデイと共にアメリカ大陸を復興させる聖霊の伝道師となつたのです。苦難が作り上げたのです。放蕩な人でも生の中で苦難が起きればその人を変化させるのです。

あなたがたは主にお会いすることのできるうちに、主を尋ねよ。近くおられるうちに呼び求めよ。悪しき者はその道を捨て、正しからぬ人はその思いを捨てて、主に帰れ。そうすれば、主は彼にあわれみを施される。われわれの神に帰れ、主は豊かにゆるしを与えられる。

私達が神様を求め叫びながら呼べば神様は、私達を向かえてくれるのです。神様を求めず呼びもしないのに神様が私達を向かえてくれるはずがありません。今日も、神様は私達を待ってらっしゃいます。ずうっと昔から待ち続けているのです。神様は、私を求めなさい、呼びなさい、帰ってきなさい。私があるあなたを容赦しあなたを変化させてあげるとおっしゃってます。

苦難を受けるとき、人々はようやく神様を求め呼び帰ってくるのです。苦難は、神様に戻れる案内人の役割をしてるのです。

3. 苦難は神様と新しい関係を作ってくれる

三番目に苦難は神様との新しい関係を結んでくれるのです。苦難の苦痛と絶望で希望を授けてくださる神様を求めるようになるのです。明るい昼間に光を求める人はいません。真昼にロウソクと懐中電灯を探す人なんていません。明るいので灯を求める必要がないのです。ところが、夜になると灯を求めます。苦難の暗闇が近づいてくると希望の光を探すのです。苦難を受けないと神様を求めません。でも苦難を受け四面楚歌になると希望の光である神様を求めるようになるのです。

ホセア書5章15節から16章1節まで"わたしは彼らがその罪を認めて、わが顔をたずね求めるまで、わたしの所に帰っていよう。彼らは悩みによって私を尋ね求めて言う。

さあ、わたしたちは主に帰ろう。主はわたしたちをかき裂かれたが、またいやし、わたしたちを打たれたが、また包んで下さるからだ"

見てください。神様は待ってらっしゃるのです。私達が苦難を受けるとき神様を懇切に求め、私達が主なる神に戻ろうと言うのです。神様は、我々の傷を癒して下さる。苦難の暗い夜が来たので希望の光である神様に戻ろうと人々は神様を探し求めるのです。

詩編91篇15節で"彼がわたしを呼ぶとき、わたしは彼に答える。わたしは彼の悩みのときに共にいて、彼を救い、彼に光栄を与えよう"

良いときは神様を求めません。患難を受けるので神様を探し求めるのです。

詩編50篇15節で"悩みの日にわたしを呼べ、わたしはあなたを助け、あなたはわたしをあがめるであろう"

この教会に出席するキム姉妹の話を聞いてみましょう。この人は夫婦でイエス様を信じない家庭でした。何回か伝道をうけ教会に行こうと誘われたのですが、その度に必要ないと断ったのです。ところが、幼い息子がトラックにはねられました。腕の骨がおれてしまいました。病院に行ったところ、医者が"関節をいためすぎて人口の関節を使わないといけない。ところがそうすると腕が成長しないので片腕が短いままだ"

でもそうすると、生涯を身体障害者としていかなければならないので何とか自然治癒できるようにしてくれと願います。それで病院で四ヶ月入院してみましたがいっこうに治りません。そして、ある日、病院で神様に祈りました。

"神様、全ての罪は親にあります。この子には罪がありません。

私の罪を許してください。そして、この子の腕を治してください"

そのうちにイエス様を信じる人達が集まり始め聞きます。

"イエス様を信じますか?"

"いいえ、信じません"

"イエス様を信じないのに叫びながら祈っても無駄です。私が手伝ってあげます"

と言い何人かを連れて病室にいきました。

子供の関節に手をのせて祈りを始め冷マッサージをしたら堅く動かなかった関節が動き始めたのです。

"やっぱり、神様は生きてらっしゃった"

そして涙で神様に感謝し退院して、夫婦で神様を信じるようになり崩れて悔い改め神様に涙で叫びながら求めた結果、関節が綺麗に治ったのです。神様の栄光が表れたのです。そして次のように告白しました。

"今となって考えれば、あの時、子供が事故に会って感謝してます。そのお陰で今は家族全員

がイエス様を信じ救いを受け天国に行けるようになりました。苦難はむしろ祝福です "

苦難が神様を求める機会となると本当に感謝すべき祝福なのです。ここにいるほとんどの方も苦難を受けここへ来てると思います。平和で豊かなときは神様を求めないのです。中々、神様を求めません。でも、苦難を受けると神様を求めイエス様を信じるようになり神様と正しい関係になるのです。苦難が私達を謙遜に溫柔にそして、服従させるのです。苦難を受ける前までは、自分が世の中で一番だと思ってますが苦難を受けるとその様なことが全て消え失せるのです。

へブル人への手紙 5 章 8 節で " 彼は御子であられたにもかかわらず、さまざまの苦しみによって従順を学び "

人が新しく変わる鎔鑪が苦難なのです。そこに入ればすべてが溶けてしまいます。だから、不純物は全て除かれるのです。銀を作るのに火の上で銀を溶かします。そしたら不純物が浮きます。それを取り除くのです。これを何回も繰り返すのです。そうしてる内に本当の純な銀がでるのです。神様も我々の中の不純物を除くために苦難の火で溶かしてしまうのです。

ローマ人への手紙 5 章 3—4 節で " それだけではなく、患難をも喜んでいる。なぜなら、患難は忍耐を生み出し、忍耐は練達を生み出し、練達は希望を生み出すことを知っているからである。 "

4. 苦難は祝福の皿を作る過程です。

四番目に苦難は祝福の皿として作ってくれる過程なのです。皆さん私達は、今日の朝食ととるとき色々な皿を使います。皿がなければ食べられないでしょう？ この様に私達の生と皿は似たような物なのです。昔話で皿をもたない乞食は、貰い物を貯める事ができないのです。神様が私達に福を授けてもらうためには皿が必要なのです。

皿は、私達自身です。人間が神様から見て福を貯められるように皿にならないと福を貯められないのです。ですからイスラエル民族を蜂蜜のような楽園に導くために荒野を通させたのです。苦難を通じて皿を準備するのです。イスラエルが 40 余年の間、苦難の学校を通じて皿を準備させて蜂蜜のような地に導いたのです。

新명기 8장 3절에 “너를 낮추시며 너로 주리게 하시며 또 너도 알지 못하며 네 열조도 알지 못하던 만나를 네게 먹이신것은 사람이 떡으로만 사는 것이 아니요 여호와의 입에서 나오는 모든 말씀으로 사는 줄을 너로 알게하려 하심이니라”

申命記 8 章 1 6 節で " 先祖たちも知らなかったマナを荒野であなたに食べさせられた。それはあなたを苦しめ、あなたを試みて、ついにはあなたを幸いにするためであった。 "

何年前にアメリカのABC放送でエリザベスモーランと言う 18 才の少女に対する報道を大きくしました。この人は、家もない乞食でしたが後にアメリカの最高の大学であるハーバード大学の優等生として合格するのです。元々、彼女は麻薬中毒者である両親の下で生まれ 15 年間家もなしに道端の小屋で暮しました。娘のコートを奪い麻薬を買うぐらいの中毒者でした。この少女は、10 才のときから乞食のようにもらってきたお金で両親を養いました。そして、両親がエイズで死ぬようになりました。彼女は、" 親みたいに生きずに社会のためになる人物になる " と決心し一人で勉強し公立高校に入学したのです。公立高校は、授業代がいらないので道

端で暮しながら勉強をすることが可能でした。勉強するところがなかったので会社の階段の隅でして雨に降られたりしり、地下鉄の階段でしたりしたのです。余りの熱心で普通の2~3倍進んでたのです。そして、学校を卒業してニューヨークタイムズがくれる奨学金でハーバード大学に入学したのです。彼女の話が新聞で全国に報道されて全国から集まった奨学金が20万ドルだったのです。でも彼女は、親を憎んだり自分の環境を恨んだりしませんでした。成功の秘訣を聞いてくる人達にむしろ、"自分の苦難が今日の自分を作りました。親が貧しかったので道端で勉強しながら心に決心したのです。ですからその様な苦勞が未来には、反対にさせてみると心に誓える機会だったのです。これは、心のなかに夢と信仰と努力ができるようさせてくれたのです。だから、自分は苦難を受けなかったら普通の少女みたいに住んでたでしょう。でもあまりの苦難のお陰でむしろ苦難を克服できる偉い人になるという堅い決心ができたのです。だから貧しい環境に感謝し栄光に思うのです"

皆さん、苦難を受けて出世する人が多いのです。幼いころ裕福に育った子供たちは、心に挑戦を受けないのでいざとなると苦難に立ち向かう度胸もないのです。ところが、幼いころから苦難で苦勞してる子供は、ハングリ―精神で苦難を克服する熱意があるのです。ですから努力の積み重ねで勉強をし未来の指導者になるのです。苦難は私達に神様の祝福を受けられるようさせてくれる器を準備してくれるのです。必ずしも苦難が悪い物ではないのです。苦難を理解し消化させると祝福となるのです。ある教授が授業のときに学生達に質問しました。

"皆さん、ある人が酔っぱらいです。家の全てを売り飛ばしながら酒を買ってこいと妻を殴ります。ところが、この女性には肺病第3期なので血を吐いてます。どうしましょうか?"

学生は答えます。

"教授、勿論、落胎します。"

"君は、今ベートベンを落胎させたんだよ"と答えたのです。

世界的な音楽家ベートベンの父は酔っぱらいで全ての家財を酒代に回し妊娠中で出産間近の妻を殴り倒したのです。そして、そこで生まれたのがベートベンだったのです。ベートベンは、11才のときから劇場を回りながら音楽の勉強をしました。そのうえ、30才のときには、音楽家には必需である聴覚を失ったのです。彼は貧しく孤独で苦しかったので、これに打ち勝つという覚悟をして音楽を勉強し努力を重ねたので不朽の偉大な音楽家になったのです。後に彼はこう語りました。

"苦しみを打ち破り、その後ろに隠れていた喜びを見つけた"

信仰を通じて彼は苦痛の意味を発見しこれを美しい音楽として昇華させたのです。ベートベンの音楽を聞いてると強い主題を持っていながらほとんどが後半では歡喜に満ちてます。苦しみの中で神様と出会いその感激を音楽を通じて昇華させた彼の生をよく表現してるのです。

栄光は苦痛を通らぬには来ないのです。強い苦痛が美しい栄光を生むのです。イエス様が十字架に掲げられたことはどんなに辛く苦しい事だったでしょうか? でもその苦痛を通じて容赦と義と平安の栄光をもたらしたのです。尊さ御霊充滿の栄光だったのです。治療と健康の栄光でした。アブラハムの祝福と亨通の栄光を授けてくれたのです。復活と永生と天国の栄光を授けてくれたのです。キリストの十字架の苦痛なしに美しい栄光を私達に授けることができなかったのです。苦痛は栄光を産む母なのです。

コリント人への第二の手紙4章16—18節で"だから、私達は落胆しない。たといわたしたちの外なる人は滅びても、内なる人は日毎に新しくされていく。なぜなら、このしばらくの軽い患亂は働いて、永遠の重い栄光を、溢れるばかりにわたしたちに得させるからである。"

我々が受ける短い時間の患難が非常に大きく永遠な栄光を私達にもたらすのです。軽い患難が強い栄光を産む親になるのです。苦難なしには栄光はありません。偶然に栄光が近寄ることはあり得ません。ですから私達に苦難が近づくと栄光も近づくとという信号なので期待すればよいのです。

ローマ人への手紙 8章17—18節で "もし子であれば、相続人である。神の相続人であって、キリストと栄光を共にするために苦難をも共にしている以上、キリストと共同の相続人なのである。わたしは思う。今のこの苦しみは、やがてわたしたちに現わされようとする栄光に比べると、言うに足りない。"

私達が受ける小さい苦難が大きい栄光を私達の生の中に満たすのです。イギリスのジョンフランクリンは探険隊の隊長でした。北極探検に行ったとき、あまりにも寒すぎてアルコールランプのアルコールまで凍ってしまいました。零下70度です。そして、雪の中を歩いたので皆、疲れはててました。

" 疲れたので少しだけ寝てから行きましょう、隊長。 "

でもフランクリンは、この寒さの中でねると凍え死んでしまうと分かってました。だから、反対したのです。そうしたら、テントの中で休むと言い出しました。後でテントに行ってみると皆、テントの中でグッスリ寝てるのでした。寒いところで寝ると麻薬中毒者みたいになります。脳の中に寒波が入り込んで気持が良くなるのです。まるで雲の上を歩いているような錯覚を起こすので眠り続け凍え死ぬのです。いくら起こしても誰も起きようとはしません。仕方なく強力な武力を使ったのです。鼻が折れ、目が腫れたり負傷をおったり踏みにじんでようやく皆が起きたのです。そして皆を眠りから起こして北極探検を済ましてイギリスに帰れたのです。

私はこの話を聞いて悟ることがありました。私達は、この隊員みたいに皆寝てるのです。イエス様を信じる人でさえ体の情欲、この世の自慢、貪慾に寝てしまうのです。この世の眠りにはまってしまうと霊的に死んで地獄に落ちてしまいます。だから神様は優しく起こしてくれるのです。でも起きないときには、

" 起きなさい、神様が来られるときが近づいてきた、天国に行く時間が迫ってきた。祈りなさい。起きて祈りなさい。 "

ですからこの世の眠りにはまって麻薬中毒者みたいに覚めないのが、叩き殴り蹴飛ばすので鼻が折れたり、傷ついたり、腕が折れたりするのです。大きな風波がこの世にきて、この世との綱をきるのです。風波がおきるとこの世に酔って眠ってしまいます。主なる神様が我々を連れに来られるときには、眠ってる連中を起こしてくれるのです。

[結論]

私達は環境と運命にぶつかる苦難を避けることができません。それが体全体にくるのです。でもその苦難に対する私達の態度を私達自身でコントロールできます。苦難を受けるとき不平、不満、反発、挫折、絶望すると私達は、深い傷を負って破滅する恐れがあります。でも苦難を前向きに受け止めその中で悔い改め崩れ神様の前でもっと順服し明日に対する希望と夢を忘れずに行くと苦難は私達を救ってくれる大きな祝福となるのです。苦難を理解し前向きに受け止める皆さんになるよう神の名で祝福いたします。

ペスタロッチは、 "自分を高い叡智に引き上げてくれたのは宝石と楽しみではなく苦難と涙であった。 " と語りました。

トルストイは、" 苦難は生理的にも精神的にも人間の成長に必ず必要な条件 " と話しています。イギリスのことわざで " 静かな海は、決して老練な海軍を産み出さない " と出てます。ゲーテは、" 苦難がある度にそれが真なる人間になる過程だと記憶しなさい " と話しています。ブローニングウェア—牧師は、" 最悪の環境は私達の生に新しい意味を授けてくれる神様の一番良い機会である " と話しています。

J.B フィリップは、" 人間の苦難は神様の機会 " と話しています。

孟子は、" 天は誰かに偉大な事を任せようとする前に必ずその心を苦しめる " 神様が皆さんに天国を授ける前に苦難の過程を通じて授けてくれるのです。平凡な塊が地の中で数千度の熱と圧力を受けるとダイヤモンドとなるのです。

平凡な塊が大きな圧力を受けダイヤモンドとなるのです。天国には、真珠の門があると言われています。何故、黄金の門でなく、ダイヤモンドの門ではないのでしょうか？

真珠は貝の柔らかい肉の下に異物質を入れ込みます。それが、肉にあたり痛いので苦しみで液体を吹き出しの繰り返しで真珠となるのです。真珠は、苦難で造り上げられるのです。天国の入り口は、真珠の門なのです。この世で苦難を受けダイヤモンド、真珠みたいになった人が入れるところが天国なのです。

神様は、必ず先に苦難を与えてから栄光に参加させてくれるのです。だから皆さんに色々な苦難がきてもおかしくないでください。苦難はイエスキリストの名の中で神様を頼り前向きに受け止め苦難の中で希望と夢を無くさず感謝し克服していくとその苦難が皆さんを金と銀と宝石のようにダイヤモンドのように真珠のように作ってくれるのです。

[祈禱]

尊く栄光な父なる神様！

私達は、火の粉が舞い上がるように苦難を受けるために産まれました。

しかし、苦難を否定的に受け止めると怨望、歎息、挫折、絶望、苦難に踏み躪られて粉になり敗北してしまいます。でも私達に迫ってくる苦難はキリストイエスの中で神様の恵みで私達が前向きに受け止め苦難を有事手崩れ悔い改めし変化し、もっと神様に頼る機会になると私達が永乞うな真珠とダイヤモンドのように変化して天の国に入れるのです。

神様、苦難は避けられませんが、苦難を否定的に受け止めず前向きに受け止める事は、私達の選択によります。キリストの中で神様の恵みで前向きに苦難を受け止め克服できるよう救ってください。

イエス様の名を持ってお祈り致します。 —アーメン—